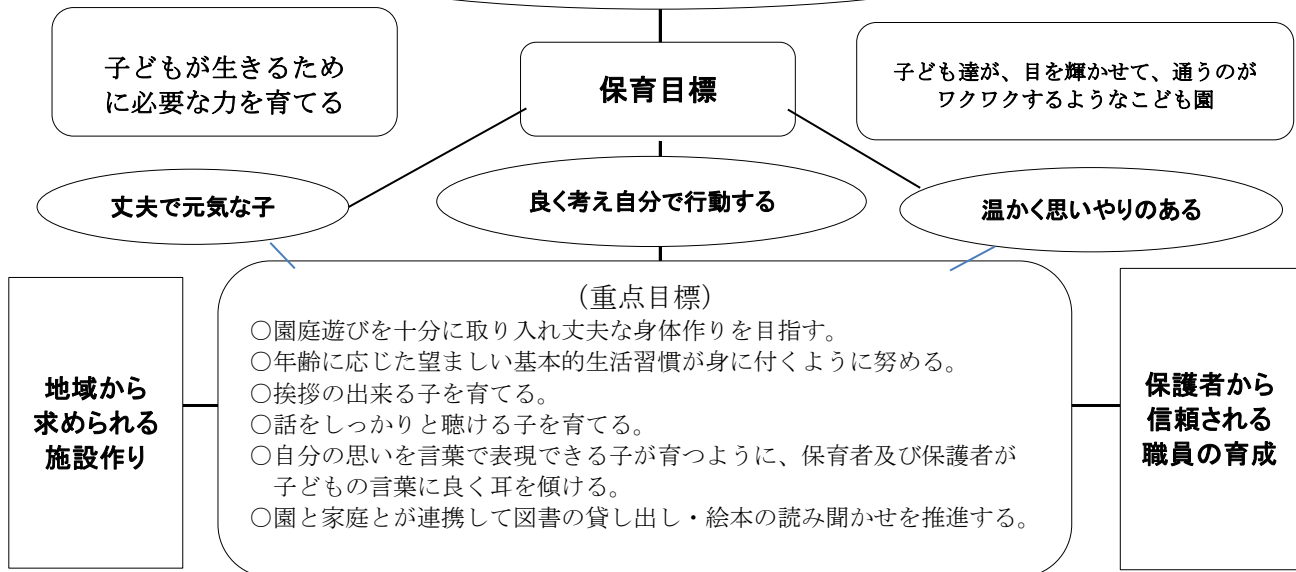


## 共育と貢献



### [実践事項]

- みさと運動の推進 早寝早起きの習慣(9時までには就寝する。)
- 挨拶「おはようございます」「さようなら」、名前を呼ばれたら「はい」の返事。
- 天気の良い日には1日1時間は外遊びをし、ケガをしにくい丈夫な身体作りと体力・運動能力の向上を目指す。
- 幼児期は遊びからルールや社会性を学ぶことを理解し、必要な援助を行う。
- コーナー保育で、自分で好きな遊びを選択する事で自主性や創造性を育てていく。
- チーム保育でいろんな角度から子どもたちの良さを引き出す。
- 職員の資質向上の為に、各種研修への参加。
- 片づけ、衣類の着脱、はきもの揃え、手洗い歯磨きの習慣など家庭と連携し、個々の子ども達の状況を把握しながら、きめ細かな援助を行う。
- 遊びながら英語に親しむ(GENKI英語 年長)
- 子育て講演会・個別面談(年2回)等で、保護者の育児能力の向上を図る。
- ランチルームで保育園児も幼稚園児も自園の同じ給食を食べることにより、みんなで食べることの楽しさが味わえるようにする。異年齢児での食事により、年長児は年少児の面倒を見たり、年少児が年長児のやり方を真似るなどの効果を期待する。自園の給食で、作り手の顔が見えることにより、調理の過程に興味を持ったり、感謝の気持ちを持つ。
- 畑での野菜育てやクッキングなどの体験活動により食への関心が高まるようにする。
- 園と家庭とが連携して図書の貸し出し・絵本だよりの発行・読み聞かせをし、楽しさを親子で共有していく。
- 保育者が0歳から6歳の発達過程を理解し、年齢に応じた援助を行う。保護者に対しては大きな子どもの姿を見せることにより成長の道筋を示し、育児不安を取り除いていく。
- 小学校教育との円滑な接続の為、交流を設けたり、情報共有や相互理解など連携を図る。
- お手伝いカードの配布し、保護者からの自己有用感を高めていく。
- 育ちにつまづきの見られる子どもは、町の保健師さんと連携をとったり、園内でケース検討会議を設けたり、保護者に専門機関を紹介したりして早めの対応に心掛ける。
- 感染マニュアルを園内研修で再度取り上げ園全体で周知し、早期発見、保護者への早期治療を促す。
- 昨年度のヒヤリハット報告を検証し、危険個所の洗い出し、ケガをしやすい子の特性を知り、重大な事故につながらないよう気をつける。
- 町行事・地域への貢献参加(あやめ祭り・鼓笛隊パレード・老人施設訪問)で、郷土愛を育てる。
- 子育て支援の充実
- 子ども達にも視覚教材等で安全教育を行う。
- 良い実践をする為には、職員の健康管理。
- 職員の負担軽減・働きやすい職場作り。就業時間の厳守。
- 園庭改造

